

2023年度
北海道社会事業協会帯広病院

臨 床 研 修 プ ロ グ ラ ム

プログラムの目的と特徴

このプログラムは、研修医が医師としての第一歩を踏み出すにあたり、プライマリ・ケアを中心とした基礎的・基本的臨床能力を身につけ、全人的医療を身につけることを目的とする。

帯広・十勝地区における代表的な急性期医療を行う病院として、豊富な臨床症例を経験することにより、充実した卒後初期臨床研修ができるように配慮した。2年間で内科、救急部門・地域医療・外科・小児科・産婦人科・精神科の必修科目（一般外来の研修を含む）、さらに自由選択科目研修（消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・総合診療科・腫瘍内科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・脳神経外科・麻酔科・病理診断科）においては、研修医個々人がプライマリ・ケアを主眼においた自由なローテーションの選択を可能にした個別選択プログラムである。

総合診療科

1. 科の概要と研修目標

総合診療科は、平成 28 年 4 月に当院に新たに新設された診療科です。総合診療専門医は、主に地域を支える診療所や病院において、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他の職種などと連携し、地域の医療、介護、保健など様々な分野でリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供する医師と定義されています。そのような医療の実践と、総合診療専門医を目指す医師を育てる場となることを目指しています。

初期臨床研修では、医療面接や身体診察、よくある症候・疾患への初期対応といった基本的な技能、患者の問題を解決する手法、症例提示、患者を全人的に理解する姿勢を修得することなどを目標にしています。

2. 研修内容

上級医とともに入院患者、救急患者の診療を担当し、医療面接や身体診察、診断推論、患者や家族およびチームの他の医師や多職種とのコミュニケーションといった基本的な診療能力を身に付けてもらいます。また、生物心理社会モデルをもとに患者を理解する方法を学びます。定期的に指導医と振り返る時間を持ち、経験からの学びをさらに深め、研修終了後の自己学習(生涯学習)の習慣の基礎とします。

その他、各種カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行うとともに、多職種との対話や協議を通じて、医療に限らず保健や福祉に関することについても学び、多職種連携、地域コミュニティケアについての洞察も深められる内容となっています。

3. 指導医

責任者 堀 哲也（部長・副プログラム責任者）
堀 みき（主任医長）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務グ	病棟業務 (第 1・3 週)
午後	症例検討 カンファレンス 病棟業務	病棟業務 病棟 カンファレンス	病棟業務	病棟業務	病棟カンファレンス	
備考	午前、午後に回診を行い、2～4 週間に 1 回、振り返りを行います。					

※1～2 回／週 外来研修を実施

消化器内科

1. 科の概要と研修目標

消化器疾患を中心に、肺炎や糖尿病などの一般内科疾患の診察を行っている。
消化器内科全般の基礎知識、内視鏡検査をはじめとする、基本手技について学ぶ。

2. 研修内容

様々な腹部の愁訴をもった患者に対して、適切な問診と診察を行う。類推される疾患を念頭に適切な検査を行い、診断ならびに治療方針を決定する。眼瞼結膜の貧血、眼球結膜の黄染、羽ばたき振戦、クモ状血管腫、手裳紅斑、圧痛点、腹膜刺激症状、腹水、浮腫などの身体所見を経験する。

以下のような、頻度の高い疾患を経験する。

- ① 食道・胃・十二指腸疾患(食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)
- ② 小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)
- ③ 胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)
- ④ 肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)
- ⑤ 膵臓疾患(急性・慢性膵炎、膵癌)
- ⑥ 横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア)

経験できる検査・手技

上部・下部内視鏡検査、造影検査、腹部超音波検査、経鼻胃管挿入、
腹腔穿刺、中心静脈確保など

3. 指導医

責任者 佐藤 修司 (主任部長)

伊志嶺 優 (主任医長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	上部内視鏡	採血、検査	外来診察・見学	外来診察・見学	上部内視鏡	上部内視鏡
午後	腹部超音波	病棟患者	下部内視鏡	病棟患者	腹部超音波	
備考	内科外科合同カンファレンス				内科カンファレンス	

循環器内科

一般目標

循環器疾患における基礎知識・基本的診療技術の習得。

行動目標

- 1)病歴の聴取、診療録の記載、オードリングなど医師としての基本的診療技術の習得。
- 2)循環器内科疾患を中心とした鑑別・診断・治療における診療技術やアセスメントする能力を習得する。
- 3)循環器内科領域における、可能な範囲での手技を習得する。
- 4)医療チームとしての自分の役割を理解し実践する。
- 5)患者・家族への適切な説明・指示・指導を実施する。
- 6)症例検討などの際の症例提示・討論を行う。

経験目標

経験すべき検査・手技・治療
(検査・手技)

- 1)血液検査を理解し、結果を説明できる。
- 2)心電図・運動負荷・心臓超音波検査などの生理学検査を理解し、結果を説明することができる。
- 3)胸部X線・CT・MRI・RIなどの画像検査を理解し、結果を説明することができる。
- 4)輸液管理を理解し、安全に実施することができる。
- 5)中心静脈カテーテル挿入の目的・方法・合併症などを理解し、安全に実践できる。
- 6)心臓カテーテル検査の目的・方法・合併症などを理解し、結果を考察した上で説明することができる。

以上の項目やその他についても、指導医とともに十分に考察・検討をすることで内科的な診療技術を身に付ける。

(治療)

- 1)循環器内科領域を中心とした薬物治療の意義を理解し、薬物の選択・用量調整を行うことができる。
 - 2)カテーテル治療の適応、治療に用いられる医療器具(ステント・バルーン・血管内超音波・大動脈バルーンパンピングetc.)などの知識を習得する。
 - 3)ペースメーカーの適応・手技についての知識を習得する。
 - 4)心不全含めた呼吸管理(気管内挿管・人工呼吸器)についての知識を習得する。
- 以上の項目やその他についても、指導医とともに十分に考察・検討をすることで可能な範囲の治療・手技を身に付ける。

3. 指導医

責任者	吉田 一郎	(病院長・副プログラム責任者)
	石本 朗	(透析センター長)
	及川 達也	(主任部長)
	西川 幹人	(主任部長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	新患外来/ 病棟業務	新患外来/ 病棟業務	新患外来/ 病棟業務	新患外来/ 病棟業務	新患外来/ 病棟業務	新患外来/ 病棟業務 (第1・3週)
午後	心エコー・ 負荷検査/ 病棟業務	カテーテル 検査・治療	心エコー・ 負荷検査/ 病棟業務	カテーテル 検査・治療	アブレーション (1/月)	
16時 ～	カテーテル カフェレンス		病棟症例 カフェレンス			

※これらの他、循環器疾患の救急診療など、適宜指導医のもとで診療に当たる。

麻酔科・救急部門

1. 科の概要と研修目標

年間約1,400件の手術麻酔と急性薬物中毒を主とした救急疾患、およびペインクリニックの診療を行っている。

麻酔科研修の主たる目的は、主に手術時の麻酔管理をとおして呼吸・循環動態を中心とした生命維持のための必要な知識および技術を修得するとともに、麻酔科医の麻酔関連領域における役割を理解する。

救急部門では基本的技術を身につけ、基本的な救急処置や管理方法・緊急性、重症度を正確に判断する能力を修得する。

2. 学会認定施設名

日本麻酔科学会認定医研修施設

日本ペインクリニック学会指定研修施設

3. 研修内容

研 修 内 容	備 考
指導医とともに麻酔症例を受け持ち、周術期管理を学ぶ 持続硬膜外法を用いた術後鎮痛法を学ぶ。 ペインクリニック外来を見学し疼痛疾患の特徴、治療手段を知る。	麻酔症例検討会 週1回 抄読会 週1回
※日中の救急業務を8週。 ※2次救急当番（日当直）による、救急患者の初期診察を20回以上（4週相当）。	

4. 指導医

責任者	佐藤 紀	（主任部長）
	大沼 淳	（主任部長）
	田中 清高	（主任部長）

小児科

1. 科の概要と研修目標

病院の置かれた状況より、おのずと提供が期待される医療に差があるが、当科の場合、十勝医療圏においてプライマリーケアから2次救急疾患まで広汎な疾患群を網羅することが期待されている。

それを実践する立場となると、必要とするスキルとして、幅広い疾患への理解、緩急をつけた医療の遂行、地域の多職種との連携等、かなり負担が大きいことは事実である。しかし研修をする環境としては、小児医療の全く自然な姿というものを体験できる魅力的なやりがいのある環境である。

各個人の将来の目標によって小児科研修で目指すところは違ってくるであろうが、将来小児科を考えている研修医には、多くの子供たちと接することによって、人間の生活そのものへの共感を涵養する研修となることを期待したい。将来小児科以外を目指す研修医には、小児科診療の最低限のスキル取得と、小児科医の思考過程に触れる研修となって欲しいと思う。

2. 研修内容

- ①新生児、乳児、幼児、学童というように同じ小児であっても体格も違えば、精神機能も違う。各段階の正常小児像を理解する。またそのことより正常から逸脱した疾病状態への気づきを可能とする。
- ②小児全般に言えることとして、言語によるコミュニケーションが不十分である可能性を念頭に置く。特に乳児期までは言語は使えない。非言語によるコミュニケーションのスキルを体験する。また小児の代弁者である両親(特に母親)からの情報収集のスキルを会得するよう心掛ける。それは取りも直さず、多職種スタッフとの連携が重要であることを再確認するだろう。
- ③基本的な小児の処置を体験、可能であれば実践する。
- ④周産期医療の現場を体験し、正常新生児の適応過程を学習する。病的新生児の診療に上級医とともに参加する。
- ⑤机上の学習として
頻度の高い小児疾患につき一通りの知識(病態、症状、検査所見、治療)を身に着ける。受け持った疾患について掘り下げて考察し、現在の医学レベルを垣間見る。抄読会にて英語論文をよみ小児領域のterminologyに親しくなる。

3. 指導医

責任者	青柳 勇人 (副院長・プログラム責任者)
	松岡 恵 (主任医長)
	渡邊 さやか (主任医長)
	濱田 詩織 (医長)
	遠藤 愛 (医長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟
午後	病棟	病棟 予防接種 心エコー検査	乳児健診 病棟	病棟	病棟	
備考			17:00～抄読会 17:30～産科・ 小児科カンファレンス			

※1～2回/週 外来研修を実施

産婦人科

1. 科の概要と研修目標

地域周産期母子医療センターとして、年間300件の分娩と婦人科全般(良性・悪性腫瘍、不妊症を含む)の診療を行っている。
女性特有の疾患による救急医療や、プライマリケアを研修する。妊娠、出産ならびに新生児医療に必要な基本知識を研修する。基本的な産婦人科診察法・検査・手技・治療法を学ぶ。

2. 研修内容

産科

スタッフと共に外来・入院患者の診察、超音波診断、胎児心拍モニタリング、分娩の管理、新生児の診察を学ぶ。
妊娠・分娩・産褥期の管理、新生児医療に必要な基礎知識とともに、育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また、投薬や検査をする上での制限等についてその特殊性を理解する。異常妊娠、異常分娩の対処、帝王切開の適応について学ぶ。

婦人科

スタッフと共に外来・入院患者の診察、病棟回診で診察法・治療法を学ぶ。
開腹手術、腹腔鏡手術の適応を学び、助手に入り実際の手術手技を学ぶ。
女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、それらの失調に起因する疾患に関する系統的診断と治療を学ぶ。

3. 指導医

責任者	鹿内 智史 (主任医長)
	杉田 奈穂子 (主任医長)
	服部 理史 (部長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	
午後	外来 病棟カンファレンス	手術	外来 手術カンファレンス 小児科合同 カンファレンス	手術	手術	
備考						

外 科

1. 科の概要と研修目標

一般外科（乳腺、甲状腺、鼠径ヘルニアなど）消化器外科（消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、胆石症など）の診療を行なっている。

研修目標は診断、手術、術前術後管理などに関する基本的な知識と技術を習得すること。

また患者、家族との対応や他の医療スタッフとの連携を学ぶ。

2. 学会認定施設名

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本消化器外科専門医制度修練施設

日本乳癌学会専門医関連施設

3. 研修内容

研 修 内 容	備 考
患者診察 入院患者の病歴聴取、診察、診断を学ぶ。	
検査 造影検査、内視鏡検査、画像診断検査の手技、診断を学ぶ。	手術症例検討会（内科・外科） 週 1 回 外科症例検討会 週 1 回 十勝外科集談会 年 4 回
手術 手術の助手、術者となり手術を行う。	
患者管理 手術適応、輸液、薬剤使用を学び、周術期の管理を行なう。	
	※1～2 回／週 外来研修を実施

4. 指導医

責任者	本間 友樹	（部長）
	橋本 卓	（診療部長）
	加藤 紘一	（主任医長）
	杉井 沙織	（主任医長）
	阿部 厚憲	（名誉院長）

整形外科

1. 科の概要と研修目標

地域センター病院の整形外科であり、外傷から変性疾患まで、新生児から超高齢者まで多彩な患者を診療する。他施設からの紹介患者や、救急当番日に搬入される患者も多い。手術内容では骨折手術が多い。当院は急性期であるが、高齢者の大腿骨骨折などでは、術後患者を慢性期リハビリテーションまで加療することもある。研修では、他科専門医になっても役に立つ整形外科的外傷のプライマリケア、高齢者の慢性疾患への対応、及び整形外科手術を通して皮膚・筋肉・骨への感覚を身に付けてもらう。又、スポーツ専門外来を併設し、プロ、アマのスポーツ選手が多く来院し診療にあたっている。

2. 学会認定施設名

日本整形外科学会専門医制度研修施設

3. 研修内容

研 修 内 容	備 考
●病棟では指導医のもとで診察、処置、治療計画立案 治療経過の評価を行う	リハビリテーション回診 週1回 症例検討会 週1回
●外来では指導医の診療を見学する	抄読会 週1回
●手術では指導医のもとで手術の助手をする	
●リハビリテーション回診で理学療法士と意見交換をする	
●症例検討会で他の医師が経験した症例から学ぶ	

4. 指導医

責任者 興村 慎一郎 (主任部長)

成田 有子 (主任医長)

濱岡 航大 (医長)

泌尿器科

1. 科の概要と研修目標

泌尿器科領域全般の診療を行っている。前立腺肥大症、神経因膀胱、尿管結石、尿路感染症などの良性疾患はもちろんのこと、腎細胞癌、尿路上皮癌（腎盂、尿管、膀胱）、前立腺癌などの悪性疾患に対する診療のニーズが高く、積極的に対応している。

研修目標は、プライマリーケアに必要な泌尿器科疾患の診断、治療の基本的事項を習得する。

2. 学会認定施設名

日本泌尿器科学会専門医関連教育施設

日本がん治療認定機構認定研修施設

3. 研修内容

研 修 内 容	備 考
外来：患者の心理に配慮した適切な問診ができる能力を身につける。診断、治療を適切にできる能力を養う。直腸診、検尿、導尿、経直腸的エコー、膀胱鏡、膀胱内圧測定、尿路造影検査の実施。	手術症例検討会 週 1 回 病棟カンファレンス 週 1 回
入院：入院患者に対して全身、局所管理が適切に行える能力を養う。周術期管理ができる能力を養う。補液、抗菌剤、検査の適切な指示を主治医として行う。	日本泌尿器科学会北海道 地方会への参加
手術：基本的手術手技を習得し、執刀医あるいは助手として手術に参加する。生検、陰嚢内手術など小手術の執刀、開腹、閉腹など基本手技の実施および助手として、糸結び、鉤引きを行う。	

4. 指導責任者・指導医

岡田 学 （副院長）

脳神経外科

1. 科の概要と研修目標

脳卒中や脳神経外科一般疾患の診察を通じて、それらの知識を深め、速やかな検査や治療方針の決定・実行が出来るようにする。

2. 研修内容

外来での問診・診察・検査・結果説明等を身につける。

救急外来での脳神経外科的対応を学ぶ。

入院患者の病状管理・検査・結果説明等を学び、それと共に、各疾患の病状の全体的な流れを理解する。

3. 指導医

責任者 菅野 三信 (医師)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	
午後	病棟業務 (検査・手術等)	病棟業務 (検査・手術等)	病棟業務 (検査・手術等)	病棟業務 (検査・手術等)	病棟業務 (検査・手術等)	
備考				13:30～ リハビリカンファレンス		

眼 科

1. 科の概要と研修目標

3次医療圏十勝圏域(人口35万人)では総合病院眼科は少なく地域センター病院としての役割を認識しながら眼科診療を行っています。眼鏡合わせ、結膜炎、ものもらいの治療などのプライマリケアから急性緑内障発作、眼球破裂などの緊急手術まで幅広く対応しなければなりません。重症全身合併症を有するもの、ステロイドパルス療法を必要とする疾患や重症感染症の症例を入院下で治療を行っています。

眼科研修においてはプライマリな疾患の対応からさまざまな重症疾患までの診断・治療の実際に触れていただき眼科診療についての基本知識を習得することを目的としています。

2. 研修内容

- ①眼科の診断に必要な対光反応・眼球運動・視力検査・屈折検査・眼圧測定・角膜内皮細胞検査・眼底カメラ撮影・光干渉断層計(OCT)検査、視野検査などの基本的検査を習得する。
- ②細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、隅角鏡検査などのテクニックを要する検査を習得する。
- ③睫毛抜去、結膜・角膜異物除去、鼻涙管洗浄、麦粒腫切開などの外来小手術を習得する。
- ④網膜光凝固術、YAGレーザー切開術など機器を用いた外来手術を習得する。
- ⑤手術室における清潔野と手術に伴う眼感染症の発生頻度、予防策など基本的な事項について確認し白内障などの手術助手を務める。
- ⑥緊急眼疾患に迅速に対応できるよう日頃から外来⇔病棟⇔手術室の各業種での業務の流れを意識し、最小限で最大限の的確な指示を出す能力を習得する。

3. 指導医

責任者 田邊 章浩 (主任部長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	眼科特殊検査 外来小手術	手術	眼科特殊検査 外来小手術	手術	眼科特殊検査 外来小手術	
備考	病棟回診は午前の外来の前と午後の診療終了後に行います。					

耳鼻咽喉科

1. 科の概要と研修目標

耳鼻咽喉科一般特に良性疾患を中心に広く診療を行なっている。

研修目標は、一般的耳鼻科臨床の理解と研修レベルの耳鼻科手術の修得である。

2. 学会認定施設名

3. 研修内容

研 修 内 容		備 考
外来	一般外来、鼻出血、滲出性中耳炎等の処置を修得する。	
検査	外来での鼻腔咽頭喉頭ファイバー等の検査を修得する	
手術	基本的手術手技を修得する。助手として手術を行なう。	

4. 指導責任者

萬 顕 （医師）

病理診断科

1. 科の概要と研修目標

病理診断は、将来どの診療科へ進むにしても必ず関わりをもつ分野です。病理診断科での研修では、臨床との連携を通じ良質な医療を実施していくために、病理診断業務に関する基礎的な知識を修得するとともに臨床科やメディカルスタッフと協働する姿勢を学びます。当科は道内で数少ない複数の常勤病理専門医が所属する研修施設で2016年新設であり、最新で安全対策も万全の設備を保有しています。臨床科と症例情報を共有し診断に当たるとともに、近隣医療施設とも連携して業務を行っています。

2. 研修内容

◎外科系臨床医には病理診断の知識は必須の研修内容です。よって病理診断科単独としてだけでなく、臨床科と併行しての研修も可能です。例として外科で担当する患者さんの手術検体を自身で検索し診断する、あるいは皮膚科志望なので関連臓器を見たい、等興味のある分野に集中して標本を観察することも可能です。臨床科と協力し要望にお応えします。

◎さまざまな病理診断業務を実体験することが可能です。

〔病理組織診断〕 検体の安全な取り扱いを知る。臨床診断、所見を理解し肉眼診断を学ぶ。適切な切り出し、標本作成の方法を理解し実践する。特殊染色、免疫組織化学の意味合いを理解する。

〔術中迅速診断〕 肉眼診断による標本作成から報告までを実践する。

〔病理解剖〕 症例の治療経過を理解し全身を見て死に至った病態生理を解き明かす autopsy pathology の方法と考え方を学ぶ。見学のみではなく解剖補助、執刀が可能です。

〔細胞診断〕 胸腹水、尿、喀痰、婦人科材料等での基本的な細胞像を観察する。

3. 指導責任者・指導医

三浦 千砂子（病理診断科部長）

三浦 一郎（臨床検査科主任部長）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	9:10～病理科ミーティング 手術検体の肉眼観察・切り出し標本作成					
午後	組織病理診断（HE・特殊染色・免疫組織化学）					
備考	迅速診断（随時）			病理解剖（随時）		

腫瘍内科

1. 科の概要と研修目標

[科の概要] 2020年度新設。がんの化学療法・支持療法・緩和ケア・がんの終末期の患者の訪問診療を行っています。扱うがん種は、消化器・乳腺・肺・泌尿器・婦人科・原発不明・肉腫など小児以外の固形がん全般。2つ以上のがんを持つ場合や、精神疾患や認知症合併のがん、透析など身体合併症がある人のがん治療など困難ケースの対応をすることも多いです。副作用を軽くするための支持療法やメンタルケア、外見変化や就労問題といったサバイバーシップのケアも院内のがんサポートチームの一員として行っています。入院・訪問診療での在宅での緩和ケアも連続して行っており、がん治療と緩和ケアの統合、入院と自宅のスムーズな移行ができることも当科の特徴です。

[研修目標] 医学的側面だけでなく、心理・社会面も考慮した全人的な医療をがん治療の分野でどのように行っているのか知り、治療選択や必要な社会資源を選択できること。

2. 研修内容（こんなことが経験できます）

- ・ 各種がんの化学療法を中心とした治療方針の決定と実際の治療や支持療法。（術前・術後・転移再発症例の化学療法など。どのように説明し意思決定支援をし、どのように治療マネジメントをしていくか。）
- ・ がん患者と家族の緩和ケア、終末期ケア、グリーフケア。
- ・ 訪問診療・在宅看取り。（在宅を支える地域の訪問看護やケアマネなどとの連携）
- ・ がんサポートチームの多職種チームで支えるがん治療やケア。

3. 指導医

責任者 杉山 絢子（主任部長／がん薬物療法専門医・指導医）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟／外来	病棟／外来	がんサポート チーム回診	病棟／外来	●相談室カンファ 病棟／外来	病棟／外来 ／訪問
午後	●6F病棟カンファ ●婦人科カンファ ●がんサポーターボード	がんサポート外来 ・病棟・訪問	病棟 ●がんサポート チームカンファ	がんサポート外来 ・病棟・訪問	がんサポート外来 ・病棟・訪問	
備考	朝と夕 病棟回診					

地域医療

◆協力施設にて4週以上研修。（下記の医療機関中いずれかで研修）

概要と研修目標

医師として、地域住民の健康保持及び増進に全人的に対応するために、地域医療（総合診療・在宅診療・外来診療）を理解し実践できる能力を身につける。

●北海道家庭医療学センター関連施設

更別村国保診療所・上川医療センター・北星ファミリークリニック・
栄町ファミリークリニック・寿都診療所・本輪西ファミリークリニック・
若草ファミリークリニック

●鹿追町国民健康保健病院 河東郡鹿追町東町1－38
病床数50床（一般）

●社会福祉法人 北海道社会事業協会余市病院 余市郡余市町黒川町19－1
病床数172床（一般60床、障害60床、療養型52床）

●社会福祉法人 北海道社会事業協会岩内病院 岩内郡岩内町高台209－2
病床数186床（一般96床、療養型90床）

●十勝いけだ地域医療センター 中川郡池田町西2条5丁目25番地
病床数60床（一般60床）

【協力型病院】

◆自由選択科研修で希望があれば研修可能である。

●社団医療法人 北斗病院 帯広市稲田町基線7番5

病床数267床

脳神経外科、循環器科、心臓血管外科、消化器科、整形外科、リウマチ科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、形成外科、神経内科、外科、救急科、小児科

●帯広厚生病院 帯広市西14条南10丁目1

病床数651床

呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、神経内科、総合診療科、外科、整形外科、麻酔科、脳神経外科、心臓血管外科、形成外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科、泌尿器科、眼科、皮膚科、精神科、病理診断科

●札幌医科大学附属病院 札幌市中央区南1条西16丁目

●北海道大学病院 札幌市北区14条西5丁目

●旭川医科大学病院 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

【協力施設】

◆自由選択科研修で希望があれば研修可能である。

● 帯広中央病院

1. 科の概要と研修目標

十勝2次医療圏全域より、肺がん、COPD、喘息、肺炎等呼吸器感染症まで呼吸器疾患領域全般を担当医3名で診療している。その他一般内科診療、訪問診療も行っている。

呼吸器疾患の診断で特に重要な咳の鑑別や画像診断を中心に外来診療やカンファレンスに参加し呼吸器疾患領域の特徴を把握することを目標とする。

2. 研修内容

①外来診療

呼吸器内科・・・呼吸器内科外来診療について
・見学、模擬診察、実診察まで
在宅・訪問診療・・・訪問診察・訪問看護・訪問リハ
※希望があれば、見学、同行

②入院診療

疾患別入院診療の流れについて
・実務指導

③診断・検査手技

血液検査、画像診断(X-P、CT、Echo)、呼吸器系検査(肺機能、呼吸抵抗)、内視鏡検査(上部消化管、気管支)

3. 指導医

責任者	菅原 好孝 (管理者)
-----	-------------